

令和5年度 第2回 知事広聴「平太さんと語ろう」記録

【日時】令和5年8月4日(金)

午後1時30分～午後3時

【会場】袋井市メロープラザ

1 出席者

発言者：袋井市・森町において様々な分野で活躍中の方 4組7名

2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者1-1 発言者1-2	移住、農業	新規就農による移住経験を通して感じた地域の素晴らしさ	3 17
発言者2-1 発言者2-2 発言者2-3	地域活性化、 協働	高校生と地域の協働による地域活性化事例 デジタルアートでつなぐ地域活性化プロジェクト	5 17-18 19
発言者3	文化財保護、 地域活性化	文化財周辺の棚田の再生と伝統的な暮らしの継承の重要性・魅力の発信	9 18
発言者4	山林活用、 スポーツ振興	マウンテンバイクの振興による山林の活用と地域活性化	11 18
傍聴者1	—	袋井高校の次回のプロジェクションマッピング	19
傍聴者2	—	移住者紹介テレビ番組への出演	19
傍聴者3	—	農業を通じた農地の大切さの再発見	19

【川勝知事】皆様お暑い中、この知事広聴に御参集賜りまして誠にありがとうございます。

先般の6月の台風2号でもし被害に遭われた方がいらっしゃいますならば、心からお見舞いを申し上げます。今も台風が6号、どうなるか分かりませんが、水害、どうなるか分かりません。土砂崩れもあります。だから水辺にいらっしゃる方、土砂崩れが起こりそうな所にいらっしゃる方は十分に気を付けてください。

さて今日はですね、これ「平太さんと語ろう」ってことになってますが、実は基本的には広聴、広く聴くということでございまして、森町とそれから袋井のそれぞれですね、今本当にこの人の話を聞くのがためになるという方を厳選していただいて、それぞれ2組ずつですね、出てきていただいておると。そしてそのお話で聴くに値することは、こうしたYouTubeなどを通してPRをし、また私どももそれを広く御紹介申し上げます。更にまたですね、もしここで知事へ、あるいは場合によっては市町の方への要請があった場合、私の方はできればこの場でどういうふうにするっていうことをお答えしたいと思っておりますけれども、すぐにお答えできないものもあるかもしれません。しかしそれは聴きっぱなしにはいたしません。

これは非常に重要なもので、もう既に81回を数えるものです。だから私は今、移動知事室と言いまして、あの県庁の東館の5階に執務室があるんですけども、私の仕事場は静岡県そのものございますから、あちこち行ってるわけですね。まあその数はもう3千回、4千回近くになっておりますけれども。今は、昨日から差し当たって磐田の、中遠の総合庁舎に地域局長室があるんですけど、そこは今知事室になってるんですね。何かあった時にはそこに連絡していただければ私に連絡が付くということになってるんですが。

まあ昨日からですね、まず磐田に入りまして、磐田南高校の国分寺のすぐ隣接しているところに新しい校舎ができてまして。磐田南高校、ここはもう文武両道の学校ですけども、例えばヨット部は今ギリシャまで行ってですね、世界の人たちと戦ったりするぐらいの力がある、そういう学校のたたくまいを、新築校舎を見せていただきました。また磐田にですね、陸上養殖で日本一のエビ、これが関西電力、中部電力じゃなくて関西電力がですね、今タイからエビを輸入しているんですけども、80トンぐらいのエビをですね、陸上で養殖するという、この日本一の養殖を見せていただいたりいたしました。

また、袋井と森町はもう言うまでもなく、非常に歴史の古い所とそれからたくさんのお名物がありますね。袋井から言えば何と言ってもこの間、アジアにおける20世紀の最高の指導者の1人と言われたマハティール元首相が、袋井のメロンをどうしても味わいたいということで、メロン農場に行かれまして、カフェやっってらっしゃるんですけども、1つ全部食べられたそうですよ、98歳ですけど。こんなおいしいのはないと、世界一だと言われました。今度は法多山の厄除け団子食べられたら良かったかなと思ったりするんですけどもね。ともかく、そういう所でもあります。そして遠州の花火は、これは東日本大震災の時に鎮魂の花火として揚げさせていただいたり、本当に素晴らしい所ですね。「國香」というおいしいお酒もあります。これはどうでもいいことではあります。

それからですね、森町はつい最近まで「甘々娘」というおいしいトウモロコシがありまして、

秋になるとこれ以上おいしい柿はないという次郎柿もあります。それから今日は午前中に、森町にですな「森の姫牛」という、素晴らしい和牛があるんですよ。それを400頭ぐらい飼ってらっしゃるんですが、娘さんお2人が磐田の農林大学校を出られまして、手伝ってらっしゃるんですね。で、お母さんお父さんもまだ40代だと思いましたが、でもやられてですね。30頭の牛を、今のお母様が16歳の時に山形に行って30頭ぼんと買ってきてですね、その日から牛の世話を始めて、それが娘さんお二人の協力も得ておじいちゃんの御協力も得て400頭と。その所を見学させていただいたりしまして、森町にこういうおいしい和牛をお作りになっている所があるということも知りました。実に景色のきれいな所で、太田川の地下水を利用しておいしい飼料を提供しているというふうに言われておりました。

今日はそういう所を見ながら、いろいろ学びながら、こちらの代表的なこの4組の方たちにいろいろお聴きしまして、知見を広め、そしてまた県政の発展に役立てていきたいと思っておりますので、暑い中でございますけれども1時間半近くどうぞよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

【発言者1-1】私ども2人は袋井の海の近くの大野という所でイチゴを、砂地で、昔ながらの地植えで栽培してます。今年で10年目になります。本当に10年前はこういうふうに、こういう場でしゃべれるとは本当に夢にも思ってなく、ここまで協力していただいた方には本当に感謝したいと思います。

元々2人とも静岡県には縁もゆかりもなくこちらに移住してきました。私は宮城県、妻の方は愛知県ということで全く縁もゆかりもなかったんですけども、元々東京で旅行関係の仕事をしてまして、まさに今8月頭は毎日のように私は富士山に登ってましたので、静岡県には本当にいい思い出とか、いろんな仕事の思い出なんかもありまして。もうこの時期は月に10回以上は、1泊2日のツアーですのでほぼ毎日富士山に登ってましたし、また苦い思い出としては、旅行の添乗員をやっていたんですけども、伊豆のパノラマパークという所で、ロープウェイで登ってお昼を食べてその後修善寺で散策するというツアーもあったんですけども、添乗員なのにバスに置いていかれるという、そんなこともありまして。本当に静岡にはですな、いい思い出とか、ちょっと苦い思い出なんかもあります。

ただ25歳ぐらいの時から、会社の上司にちょっと農業をやりたいというふうな相談をして、ただその時に「農業？いやそんな正気か？」「生活できるのか？」「お前がその立場でどうやってやるんだ」というふうな言われまして。なかなかやっぱり現実的には、いきなり東京で勤めている人間が農業をやるっていうのは、かなりハードルが高く、そのまま悶々と仕事をしていたんですけども、震災が、29歳の時に東北の震災がありまして、それをきっかけに仕事もかなり影響もありまして、元々私も宮城県の東松島というところが親戚も多く、出身でしたので、そこに震災の後に訪れた時に、いやもうやりたいことは、もう今すぐやらないと駄目だなんていうふうな思っていて、とにかく一歩進めようということで、東京から家族4人で群馬県の方に、農業法人の社員として働くという決断をして移住しまして、そこで農業の道へと進みま

した。

群馬県で本当に毎日大変だったんですけども、非常にやりがいもあって、日に日に仕事も覚えて楽しかったんですけど、自分たちでやってみたいっていう思いがだんだんと強くなり、その時に静岡県の方で、「がんばる農業人支援事業」があるっていうのを聞きまして。県外県内の方に農業を静岡県でやりませんかという制度だったんですけども、それに応募しまして、袋井市の方でイチゴをやるというふうに進めまして、その後受け入れ農家さんのところで研修をさせていただくというふうに進みまして、群馬県の方から静岡県の方へ。不安が7、期待3くらいで、かなりちょっと不安ではあったんですけども、子供が4歳、2歳、そして…

【発言者1-2】3歳、5歳です。

【発言者1-1】3歳、5歳で、赤城の200メートルぐらいのところに住んでいたんですけども、「赤城の山も今宵限り」ということで深夜にですね、家族4人でドライブインでうどんをすすって、そのまま静岡へと立ってきたのがもう今から10年前です。

ただ本当に一瞬、あっという間でした、この10年は。それ程もうがむしやりに、追い込まれてたっていうのもありましたけれども、1年間研修をさせていただいて、その間に土地もありませんので、土地の方は市役所さんとか近所の方、資金もありませんので、資金の方は農協さんの方に、本当に何も無い自分にいろいろとあてがっていただいて、平成26年にイチゴ農家として独立することができまして、その後これまで10年いろいろありましたけれども、4年目には3人目の子供も生まれて、家族5人で何とか農家一本で生活をしていけるまでになりました。本当に近所の方とか周囲の方、当たり前のように毎日農業やってるとついつい忘れてしまうんですけども、本当にありがたいことだなと思ってます。

(スライド)これはですね、県の方でいろいろ勉強会もありまして、経営理念というのを3年前に作りまして。パートさんも従業員さんも、うちは季節的に約7人の方に来ていただいているので、「みんなで楽しく」というふうに、理念のもとにイチゴの栽培をやっております。

こんな感じですね、本当に海沿いの砂地で、さらさらの砂地で、最初はこんなところでイチゴができるのかなっていうふうに不安だったんですけども、やってみるとですね、本当に適地適作と言いますか、元々この辺りはスイカの名産地でもあったので、元々砂っていうのは果物なんかの栽培にはとても向いているっていうことがありまして、かなり土地には恵まれている所です。

毎年試行錯誤でやっているんですけども、砂っていうのはとても崩れやすいので、なかなか畝を作るのに大変なんですけれども、私はちょっと新しいことにチャレンジしようと思ひまして、不耕起栽培といって、畝を崩さないで、毎年この状態を維持して栽培するという方法に今チャレンジしています。どういうメリットがあるかと言いますと、まずは省力化、畝を毎回毎回作らなくていいので、労働的にも楽っていうのと、あと土の中の微生物を、かき混ぜることによってバランスを崩してしまうっていうことがあるようなんですけども、土を耕さないで畝

をこのまま使うことによって、土の中の構造をそのまま維持して、イチゴにとってはとてもいい生育になるっていうふうに聞いているので、これは今後続けていきたいと思っています。

このように本当にイチゴの技術っていうのも年々上がってるんですけども、正直私も技術的には本当に未熟でして、土地にだいぶ助けられて、農地がとてもいいので、おかげさまで本当に毎年いいイチゴが採れています。

これがですね、12月頃にイチゴの収穫が始まるんですけども、最初のトップの方のイチゴです。今でも1粒目に採ったイチゴはとても忘れられないぐらいの味なんですけれども、本当に毎年毎年農家は1年生ということですけども、毎年本当に試行錯誤しながら、いろんなことにチャレンジしながら、このように作っています。

この仕事をやってもう10年ほど経つんですけども、やっぱり地域の方といろいろと助け合いながら、本当に私みたいなよそ者に対していろいろ教えていただいたりしながら、やっていけてまして、お金で買えない豊かさと言いますか、季節になるとその時期の野菜をいただいたりできるので、そういったところも静岡に来てすごく良かったなって感じしているところです。

ただマイナスと言いますか、この仕事をやって感じたことは、やはり休みの日なんかでも、本当に仕事のこととか、イチゴのことが頭から離れないっていうのが…。逆に言えばそれだけ充実しているのかなっていうふうにも思うんですけども。こんな感じで収穫をしてるんですけど、それだけ夢中になれてるっていうことでいいのかなって思っています。

最近では近所の、地域の若手同士でグループを作って独自で勉強会をしたり、これからもそういった形でお互い勉強しながら、少しでもいいイチゴを作りながら、この写真のようにですね、ずっと家族で笑顔でいられるようにやっていきたいと思っています。

ありがとうございました。

【発言者1-2】私も一緒に農業やっているんですけども、一昨年から袋井の市役所の方に集めてもらって、「袋井農業女子」というのを始めさせていただいて、今は8名で活動をしているのですが、今まで袋井市のPR動画に出させていただいたり、「フクロイエキマチフェスタ」でみんなの作物を1つのお弁当箱に集めて販売したりして、みんなで楽しく活動しております。今後ふるさと納税の返礼品を、みんなで「農業女子セット」というのをできたらなど検討しているところです。ありがとうございます。

【発言者2-1】ただいま御紹介にあずかりました、静岡県立袋井高等学校パソコン部のプロジェクトの発表をさせていただきます。

私たちのプロジェクトはこちらになります。デジタルアートでつなぐ地域活性化プロジェクトです。改めまして、このプロジェクトの発起人兼部活全体のプロジェクトリーダーを務めさせていただきます、発言者2-1と申します。よろしく申し上げます。

【発言者2-2】部長の発言者2-2です。よろしく申し上げます。

【発言者2-3】副部長の発言者2-3です。よろしくお願いします。

【発言者2-1】プロジェクトの概要です。まずはこちらの映像を御覧ください。(スライドに埋込んだ映像の音声が出ない)じゃあ、次のスライドをお願いできますか。

【発言者2-3】今少し見ていただいた映像は、私たちのプロジェクトである法多山でのプロジェクションマッピングの一部です。このイベントでは、市内外から2千人を超える来場者にお越しいただきました。大人がいる場での高校生の活躍は全国で見られると思います。しかし私たちのプロジェクトは、私たちが立案して周りの大人を巻き込むという形になりました。

【発言者2-2】私たちがこのプロジェクトを始めた大きな要因として、2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大がありました。これにより、ここ袋井市の一大行事でもあるふくろい遠州花火大会が3年間中止になってしまいました。それもあり、コロナ以前と比べて観光客が大きく減少しているので、代わりに自分たちが観光客を呼べるイベントを作りたかったからです。

【発言者2-1】そのような思いの下、企画立案を行いました。私がこのプロジェクトを部員全員に共有する際、部活動として進めていくのであれば、以前のように何も成果を上げることのできない活動よりも、部員21人のスキルを活かして、1つの目標に向かって協働できるような活動にしたいという思いのもと、部員に共有をしました。またふくろい遠州の花火のような音と光の芸術作品を作りたいという思いもあり、プロジェクションマッピングのようなデジタルアート作品であれば、私たちの手で作ることができるのではないかと考えました。

【発言者2-2】しかし、プロジェクションマッピングをやる上で、自分たちでは解決できない問題がいくつかありました。特に性能の高いプロジェクターや音響設備など、かなり高価な物をレンタルする必要がある、また自分達の希望として、プロジェクションマッピングを映す場所は袋井市を象徴する場所で行いたいという思いがありました。

【発言者2-1】そしてさまざまな課題を解決するために、私たちは地域の方々に協力を求めました。するとこのプロジェクトには地域の多くの方々から御支援を募ることができました。例えば袋井市役所といった行政では、ガバメントクラウドファンディングの立ち上げの援助やイベントの広報、また地元企業、NPO法人、大学からは企業協賛や地域の方との仲介をしてくださいました。また市民の方からはクラウドファンディングでの資金や、SNSを通して今回のイベントのシェア、また地元のクリエイターからは、プロジェクションマッピングに必要なスキルの伝授等をしてくださいました。

最後に今回のプロジェクトを終えて、私たちが成長したと思う点についてお話ししようと思います。

まずは問題発見、問題解決ということで、私たちが独自の視点で地域の問題・課題を見つけ、それを私たち自身の手で解決するための多くの視点を身に付けることができたと思います。また地域との協働では先程の説明にもあったとおり、多くの地域の方々から御支援をいただきました。多くの方々から御支援をいただくには、まず地域のことをよく知り、その上で地域の方とコミュニケーションを積極的に取っていく姿勢が重要であるということを深く実感しました。

私たちの地域活性化プロジェクトの説明は以上になります。冒頭はすみません、映像の音声を入れることができなくて、YouTubeでも御覧になれますので、「法多山尊永寺 プロジェクションマッピング」と検索して御覧いただけると幸いです。

御清聴いただきありがとうございました。

【川勝知事】袋井の発言者1御夫妻、2人とも袋井御出身ではなくて、宮城あるいは愛知県の御出身の方がこの袋井でですね、幸せにイチゴ農家として成功されているということを大変うれしく思います。これからも子供たち3人がですね、お父さんお母さんのように意思を強く持って、このお二人の出会い、あるいは東日本大震災 2011年3月11日の、そのことがきっかけになっていたという、これは非常に大きなことだと思いますね。その時にどういう生き方をするかというので、農業したいと。そして反対を上司から言われた。だけど群馬県で農業法人に入ってまず就業したと。自立しようと思って、そして偶々静岡県にお越しになったのが10年ほど前だということですね。まあ十年一節と言いますけれども、お見事だと思いますね。

静岡県はですね、「30歳になったら静岡県！」っていうのをやってるんですよ。つまり、30歳ぐらいになるとどうするかっていうことを、お子様のこともあったり、両親のことを考えたり、自分の地域のことを、改めてふるさとのことを考えたりするので、転機が来ると。今は終身雇用っていうのが必ずしも一般的でなくなりましたので、30歳になった時にいろんなことができて幸せに、住んでよし、働いてよしのそういう所が静岡県ですよっていうことをやってたんですが、そのことをお知りにならないまま偶々ですね、こっちに來られて。ここは今コロナですね、移住希望地ランキング第一位になってるんですね。2020年、2021年、2022年、3年連続第一位。そしてその移住して來られた世代別で見ますと、30代前後が2020年で81.7%、そして2021年でそれが83%を超えまして、そして去年は84%弱まできてるわけですね。ですから30代前後の人がお金も掛かるし、これからどうして行かなくちゃいけないかっていうことで、リスクをあるいは挑戦しなくちゃいけない時にこっちに來られてるんですよ。そのモデルになると思いますね。

私は今日は袋井市長さんもいらっしゃいますので、これははっきり言われましたね。袋井のふるさと納税の返礼品に選ぶべきだと。私も賛成します。こういう物語を入れてやると。袋井の人たちは人を排斥しないと。助けてくださると。子どもたちもハッピーだとそういう物語と一

緒に言ったら、ふるさと納税は単に返礼品としての一部でなくてですね、イチゴにまつわる話があるじゃないですか。

ともかく添乗員として、お客様にほっとかれて取り残されるような愛嬌のある方で。しかしながら添乗員だけにお話が滑らかでいいですよ。ですからこれからもそういう袋井のいろいろなアンバサダーと言いますかね、PR 大使になれるんじゃないかと、御家族全体が。そんな感じをいたしまして、大変幸せなお話をいただいたと思う次第であります。

特に農業、今ウクライナの戦争で食糧危機、エネルギー危機というのが2つありますけれども、一番困るのはやはり毎日毎日食べるものがないというと本当に困ります。80 億人がいますけれども 10 億人ぐらいがきれいな水も飲めないっていうのは、上のすれすれのところにいるわけですね。そうした中でこれも農芸品というふうに地域局長がうまい言葉を言いましたね。農業芸術品。工芸品って言葉がありますけれども、農業芸術品をつづめて農芸品と。農芸品ですよ、一部は。きらび香とか、あるいは紅ほっぺとかありますけれども、これは非常にレベルが高くてですね、しかもこういう農産物が品質が高いので、実は輸出で高く売れるんですね。高く売ることが目的じゃないんですけれども。日本の政策が農産品を世界に輸出すると。でこれをですね、去年1兆4千億円ぐらいなんです。これを2年後2025年に2兆円にするって言うてるんです。2年後にですよ。毎年2千億円ぐらい増えてるんですよ。そして 2030 年今からいうと7年後ですね、5兆円にするんですって。後継者がいないっていうのにできこないでしょう。だけどですね、その普通のリンゴなりイチゴなりをですね、静岡のイチゴを食べるとこれはもう非常に品質が高くて、甘くておいしくて安全でとなるとですね、値が張るんですね。そういうふうにするとそれも可能かなと思います。

ちなみにお茶なんか、お茶っ葉で今輸出しようとしているんですけど、玉露が好まれるっていうんで玉露を作ったりしてるんですけど、実際は静岡のお茶がなぜおいしいかというと、こちらの水がいいからです。水とお茶でこのおいしいお茶ができると。すると始めから水とお茶でできてるもの、つまりこれはペットボトルもそうなんですけど、これをですね、ワインのボトルですね、あれに似た形で 30 万円で1本売ってる人がいます。天皇賞を取った天竜の茶葉生産農家さんですけど、これを真似した所が出てきて。福岡の八女茶がボトルに入れて3万円で売り始めた。だからこういうふうになると高く売れるわけですね。というよりも、こんなおいしいものを飲めないということで、例えばアラビアとかですね、あそこアルコール飲めないじゃないですか。で果物好きでしょう。そういうところに輸出すれば、2兆円とか5兆円も夢でない。だからもうふるさと納税なんて当然のことで、返礼品としては、堂々と主張してください。

それからなんか8人でやってらっしゃるんですって？女性の力です。大いに2人仲良くやってください。

それから、発言者2-1くん、発言者2-2くん、発言者2-3くんですか。お見事ですね。もう映像見ただけで、勢いを見ましたよ。音楽要らないんですよ。音楽があつたらもっと相乗効果があつたかもしれませんが、もう息を飲むような美しい映像じゃないですか。もう芸術です

ね。パソコン部のイメージと違いますね。もう芸術部です。だからそれをパソコンの技術を活用してこれにして、舞台を選ぶ。でクラウドファンディングをする。市を巻き込む。地域のために協力する。地域を元気にする。もう全部これ揃ってるじゃないですか。17歳あるいは10代、18歳から有権者になるってことなんですけども、政治離れとか、あんまり投票に行かないとかということが問題になっていきますけども、あなたがたはもうそれ全部克服してますね。たいしたもんですよ。もう明日から市役所で働けるという。もうそういうですね、素晴らしい能力とそれから志が高い、それから技術によって裏付けられているということで、もう本当に万雷の拍手を送りたいと思います。法多山の仏様もですね、天空のお星様も、みんな喜ばれていると思いますよ。本当にいいことをなさいました。お見事でした。もう言うことありません。おめでとうございます。これからも続けてください。

それから高校3年生、これからいろいろ挫折もすることがありますが、挫折は1回だけは必ずする。必ずします。なるべく早くした方がいいと思いますけどね。だけど挫折をしても志は継続するってことがすごく大切です。見てください。(発言者1-1さんの方を見て)添乗行って失敗したり、あるいはいろいろあって。こちらに来ると30にして立ってですね、今40。40不惑ですよ。40いくつ？40は迷う年なので、迷わず、不惑なのです。10年経つとですね、1回うまくいくかな、できるかな、不安だな誰も知らないしって言ってたのがここまでなるんですよ。ですから挫折を恐れなくて、今回のことを忘れなくてですね、やっていただきたい。

(卓上の花を指し)こういう美しい花を出すのが袋井です。誰の心か分かりませんよ。ちゃんと皆さん方のためにこういうのを用意してくださってるんですね。あなた方も実際はそういう仕事をされるにふさわしいような、袋井はいい地域だし、いい高等学校だと改めて思った次第です。ありがとうございました。

【発言者3】こんにちは。お暑い中ありがとうございます。

森町で地域おこし協力隊をしています発言者3と申します。沖縄から3年前に、今年で森町に移住して3年目なんですけれども、沖縄から夫と娘と3人で、今森町の山間部でポツンと一軒家の山暮らしをしています。

少し最初に自己紹介をさせてください。神奈川県出身で、大学は東京の国際基督教大学という、少し変わった大学を卒業しました。留学生が多く、国際協力やその時は人類学に興味あったので、それを勉強してきました。そして卒業間近に東北の震災が起こって、価値観や世界が一変するということを経験しました。

その震災の津波の光景ですとか、原発の事故を受けた時に、今素晴らしいと思うけれども明日消えちゃうかもしれない、後は後継者がいなくてもなくなってしまうかもしれないというものがあるということを知って、私はそれを継ぐ1人になりたいと考えて、仕事を辞めて沖縄県の後継者育成事業というものを利用して伝統工芸の世界に入りました。

そして沖縄にいる間、日本の伝統工芸を勉強しながら、世界ではこの伝統技術をどんなふうにも今の暮らしに生かしているんだろうというふうなことを考えて、夫と2人で世界の暮らしを

巡る旅ということで2年間で24カ国回りました。

伝統的な地域や職人さんを訪ねたりですとか、オーガニックファームでボランティアをしたりですとか、あとはワークショップ、伝統工芸ですとか伝統的な工法のワークショップを受けたり、あとは地元の人たちと交流などをしながら2年間過ごしました。そして帰国して、日本に帰ってきてこの素晴らしい事例や、この出会いを、沖縄での出会いや経験を得て、自分たちのルーツに根ざした暮らしがしたいというふうを考えるようになり、じゃあ自分たちのルーツって何だろうっていうふう考えた時に、里山での暮らしが一番理想的だということに気が付きました。

そしてその後森町に御縁があって、その時ちょうど地域おこし協力隊の募集がされていて、そのテーマが里山資源の活用だったり、にぎわいの創出という、自分にとってすぐ取り組みたいなって、ぴったりだなと思うミッションが出ていたので応募して、協力隊として今年3年目の活動に入りました。

では、協力隊としての活動をちょっと紹介させてください。

協力隊の活動は大きく分けて3つ程あるんですけども、1つは里山の保全に取り組んでいます。私が住んでいる同じ集落に国指定の重要文化財の友田家住宅っていう、茅葺き屋根のお家が残っています。築360年、移築されて360年ぐらいの古い家なんですけれども、建物の保存は教育委員会さんや審議会の方たちが素晴らしい成果を上げていらして、私はもう何もやることはないんですけども、せっかく今もその場所に建っていて、博物館のように展示されているわけではないのだから、集落の歴史とか営みを伝えられるような形にして、次の世代に残したいなというふうに考え、棚田の再生に取り組んでいます。

あとは田んぼだけでなく、山の管理ですとか、後継者がいなくて荒れてきてしまっているという問題が、山林などいろんな問題があるので、それを今地元の人たちや専門家の人たちの力を借りて学んでいるところです。

2つ目の活動として伝統の継承に取り組んでいます。地域の風習っていうのが、昔は当たり前前にやってきて、でも手間が掛かるし、もう人手もないから続けられないっていうので、もう今おばあちゃんおじいちゃんがやってるぐらいで、50~60代の人たちはもうやっていないようなことがあるんですけど。例えば干し柿作りとか、かまどで火を焚いてお餅をつくとか、そういうのって確かに手間がかかって、今お餅とか買おうと思えば普通に安く買えるんですけど、でもそれだけじゃなくて、生きる知恵だったり、みんなでワイワイやることによって、それがすごい楽しい作業に変わるっていうことを次世代に伝えられるように、季節仕事をイベントとして開催しています。またイベントとすることによって、里山ににぎわいが生まれるのではないかなと思って続けています。こんなふうにならなくともお餅つきをしたり、かまどに火を入れて臼と杵でお餅つきをしたり。あとは、まだこれはイベントとしてはやってないですけど、渋柿はもうどんどん里山から消えてるんですけど、それで柿渋を作ったりですとか。地元の人に、田んぼで取れた藁から縄をなったり、縄ないを習ったりなど、ゆくゆくはちょっとイベント化していったらなというふうに考えています。あとは食べ物とかだけでなく、里山で暮らすに当たっ

て裏山のメンテナンスとか、石垣のメンテナンスとか、今の 80 代ぐらいの方たちが当たり前
に持っていた知恵や技術が消えてきているので、それを練習したり実践できるようなイベント
も開催しています。

3つ目の活動として、「山ノ上ノ音楽会」と題して山間部で音楽会を開いています。地域にと
ってすごく大事な存在の建物だったり、歴史的に大事なものだったりしたけれども、今はだん
だん人が少なくなってしまう建物を、もう一度人が集う場所にできたらいいなというふう
に思っています。また、今自然に回帰しようとか子育てを自然の側でしたいけれど、文化的なア
クセスは失いたくないよっていう、子育て世代をターゲットにできたらなと思っています。今現
在は年に2、3回開いている状況です。

最後になりますけれども、協力隊っていうのは任期が決まっていて、任期後もこの土地を
生きていくために、拠点づくりを行っています。「西向き」という名前で行っています。こちらは
里山暮らしを体験できる宿泊施設を、現在リノベーションしています。地元材を使ったりです
とか、伝統的な工法を使ったり、後は自然に還る素材を使って作っています。後はこの自分
所の敷地内に先ほど紹介した友田家住宅の分家になる古民家が残っていて、そこを自分達
は血筋じゃなく引き継ぐので、少しでも記憶とかこの土地の歴史を継ぎたいなと思って、この
屋号が元々「西向き」っていうのが付いていたので、この屋号を引き継いでいこうと思ってい
ます。そしてこの建物を自分たちのものではなくて、地域の財産として地域に開かれた場所へ
というふうに、コミュニティスペースのような場所を予定しています。

あとは、自分たちの力だけではもうまかないきれないので、国内外からボランティアを受け
入れたりですとか、あとは交流、外の人と地域の人を交流する場を作って、いろんな人が関わ
って協力して、楽しみながら里山を守っていくような形ですとか、自然と一緒に生きるのが楽
しいなと思うようなきっかけや入口作りになるような場所にしていきたいなと考えています。

御清聴ありがとうございました。

【発言者4】はい。それでは私、ミリオンペタル合同会社の発言者4と申します。本日はこのよ
うな場にお招きいただきましてありがとうございます。

私ですね、ミリオンペタルバイクパークというマウンテンバイク専用のコース、いわゆるマウ
ンテンバイクパークと呼んでるんですけども、それを運営している会社をやっている、その代
表を務めています。

まず自己紹介させてください。発言者4と言います。年齢44歳で岩手県盛岡市出身です。
普段はですね、マウンテンバイクパークの運営も携わっているんですけども、会社員として、
浜松市にある住宅設備メーカーで社内 SE として働いております。学生時代、2年間静岡に
おりました、就職を機に神奈川へ引っ越したんですけども、2009 年に結婚を機に妻の実家
のある森町三倉に移住しています。

我々が運営しているマウンテンバイクについて、マウンテンバイクパークについて説明させ
てください。ミリオンペタルバイクパークは、マウンテンバイク専用のコースになっています。

(スライド)この写真にあるようにですね、マウンテンバイクが走行する際に楽しめるようなカーブとか、こぶとか、ジャンプ台があるようなものを提供しています。場所は森町三倉の大河内地区にありまして、運営は主に合同会社の役員6名で行っています。またコースの整備には、ヤマハ発動機さんの森マウンテンバイククラブのメンバーにサポートしてもらっています。

来場者ですけども、昨年4月にオープンしたんですけども、1年で約1,000人ほど御来場いただいています。今年はですね、出だしからかなり人数来ていただいているので、おそらく近い人数来るんじゃないかなと思ってます。西は関西・大阪、1回山口の方が来られたこともあったんですけども、東は埼玉とか東京の方がよく来られます。マウンテンバイクの関係の雑誌にもよく取り上げられまして、マウンテンバイク界隈では、少しずつですけど名前が知れ渡るようになっていきます。

山で、山林の活用の観点から林業の関係者様ですね、あとは山林を保有する法人の方々が見察に来ていただいて、どういった活用しているのかというところでいろいろとお話しさせていただくこともあります。また、ヤマハ発動機様で業務で利用していただいているという部分があります。

今日、受付の所でマウンテンバイクをちょっと展示させていただいているので、皆さんもし興味があれば、のぞいていただけるといいかなと思います。実はステッカーをお配りしているんですよよかったらお持ちいただければと思います。

それで、このパークをオープンしたきっかけっていうところでちょっとお話しさせていただきます。このパークですけども、まず私個人ですとか、その取り巻く環境というところで課題がありました。かなり広い山なんですけども、これを引き継いでいくっていうところで、また維持しなきゃいけないというところで、かなり不安がありました。現実問題、林業ってなかなか儲からないと言われていたり、山も、売ろうと思ってもなかなか買い手がつかないような状況と言われてます。で将来ですね、私が本業で稼いだ給料も、山の維持に注ぎ込まなきゃいけないかなとなるとですね、相当私としてもなかなか辛いなと思ってました。また、そういう山を子供たちに残していかなくちゃいけないっていうところを考えると、かなり不安がありました。そんな中、山林の活用というところで、山林の価値を上げていかないとですね、次世代になかなか引き継げないんじゃないかとそういった思いがありました。

そういったところを考えていく中で、2020年11月にヤマハ発動機さんの森マウンテンバイククラブのメンバーの方と出会いました。彼らはですね、マウンテンバイクで走れる環境を求めていて、いろいろと話していくうちにですね、マウンテンバイクを取り巻く環境っていうのがいろいろと分かってきました。マウンテンバイクっていうのは、走行環境が国内にあまり多くなくて、林道とか里道とかっていうのを走るんですけども、ハイカーとか、近隣の山林所有者の方とトラブルになったりして、走行できなくなってしまうとか、ここ走らないでくださいとか、そういった話がよくあります。こういったですね、マウンテンバイクを心置きなく走れる環境を作りたいということで、彼らがそういった思いを我々と話すことができました。ちなみに海外では、マウンテンバイクってロードバイクと同じぐらい人気があって、アメリカだと850万人、ドイツ

で400万人、ニュージーランドはですね、ニュージーランドはかなり日本より人口少ないですけども、20万人もマウンテンバイカーがいるそうです。日本ははっきりした数字ないんですけども、おそらく10万以下じゃないかと言われてます。このアメリカの850万人は2018年、コロナ前の数字なので今はもっと多くなってると言われてます。

こういったですね、私、山林所有者というところと、マウンテンバイカーっていうところで1つの方向に向かうことで、マウンテンバイクパーク作りが始まりましたというところですよ。

出会って翌月からマウンテンバイクパークのコース作りを始めました。最初はコースを作りながらやっていったんですけども、人手で、スコップとツルハシだけで作業を進めて、何百メートルも掘り進んでいきました。ただ、ちょっとやっけていくうちに相当疲れてきて、みんなちょっと口数もだんだん少なくなってきたっていうところもあって、だんだんみんな「ウンボが欲しいな」とか、そんなことを口々に言うようになりました。そんな中ですね、8月頃にですね、「サステイナブル フォレスト アクション」という林野庁が関わっているビジネスコンテストがありまして、そこで賞金300万円ももらえるらしいぞということで、ウンボ使えるんじゃないかみたいな話があって、応募しました。

そうしたところ、なんと優勝させてもらってですね、無事300万円を使う権利をゲットすることができました。その資金を使いながら2022年4月にですね、ミリオンペタルバイクパークをオープンすることができました。

今後の活動について少しお話しさせてください。我々としては、マウンテンバイクを通して森町や中山間地域に興味を持っていただく活動を進めていきたいと思ってます。また、マウンテンバイクを通して森林・林業に興味を持っていただく活動、またマウンテンバイクができる環境を増やしていく活動を行ってきたいと思ってます。直近ですと、地域の村の様々な資源を生かすということで、地域を活性化するプロジェクト、森町ツーリズム研究会の農山村プロジェクトというのがありまして、こちら県の補助をいただきながらやることになるんですけども、そういったところで我々も参加させていただいています。その他に、先程ちょっと話ありました、ふるさと納税の返礼品としてパークのチケットとかそういった話も出ています。準備中の活動も多くありますけども、精力的に今後活動を進めていきたいと思ってます。

最後に、我々いつもメンバー内で話しているんですけども、静岡はすごいマウンテンバイクに適してるんじゃないの。適している環境じゃないかというところで、年間を通じてですね、降雪量が少ないというところ、比較的温暖というところ、路面凍結も少ないというところ、マウンテンバイク年中乗れますよ。北の方行くと、冬はどうしてもマウンテンバイクに乗れないので、我々はかなりメリットあるんじゃないかと。また古くから山に人が入っているっていうところもあってですね、林道里道があちこちに実はあつたりします。そういったものをですね、そういった資源を十分に活用できる環境が静岡県にはあるんじゃないかと思ってます。なのでこういった今回お話聞かれている中で、こういったことに興味がある方であれば、いろいろとお声がけいただけると、と思います。またマウンテンバイクの活用とかですね、そういったのも考えていただけるといいのかなと思ってます。

恵まれた環境がある一方ですね、山間地で活動していく中で困ることもあります。携帯の電波が届かなかったりとか、当たり前なんですけども、水がなかったりとか、道が細かったりとか、いろいろあるんですけども、こういったところも何かできないかなと思っていて、こういった場で、何かこういった悩みを一緒に解決できたりとか、あのアドバイスとかサポートとかいただけるとうれしかなと思ってます。

以上で終わります。御清聴ありがとうございました。

【川勝知事】発言者3さんどうもありがとうございました。

発言者3さんも県外からお越しいただいたということで、国際派で、地域おこし協力隊という、これは地域を経験するのに素晴らしいプロジェクトですね。伊豆半島などでも地域おこし協力隊として3年ほど活動されて、残る人がすごく多くなってますね。そして発言者3さんも今、先ほどおっしゃったように、その「西向き」という、そこを里山体験の拠点として資金源にしながら、残っていこうとされているのがうれしいです。ぜひ御主人様、お嬢様とですね、もう既に国際的にも知られているように御紹介いただきましたので、この火が消えないようお願いしたいと思います。

まず里山という言葉ですけど、これはですね、英語にできないそうですよ。どうですか？できないそうなんです。例えば「奥」って言葉があるじゃないですか。どうぞ奥にどうぞっていう。その奥っていうのも、英語にできないそうです。奥って言って隅かって言うと、一番大事な所ですね。どうぞ奥の方へっていうのは、別に隅っこに行けてことではありませんから。ですから、そういうものの1つが里山なんです。津波が国際語になったように、実は里山というその「里山」というそのままですね、これを専門家の間ではそのまま使われるようになった。つまり里と山の間地点で、山っていうのがひょっとすると魑魅魍魎(ちみもうりょう)が住んでるかもしれない恐ろしい所と。で一方、そこが提供してくださる水を使って田畑を潤すと。そのちょうど中間地点にあって、人々がそこで手を入れている場所、これが里山で、大体山から出るところに鳥居を建てて、その鎮守の森として山守、山を大事にしたりですね、そういうふうに、これが日本の、この平野の少ない日本で、山際に住んでいく。それが里山ということを生んでいって、今里“海”とか、里“浜”とかいうようにもこの言葉が発展してるようですが、原点は里山ということで。でその里山作りっていうのは、実は本当に世界になかなか珍しいものなので、これを上手にイベントなどを通して紹介すれば、感動することは国際的に可能だということだと思うんですよ。ですから、森町はもうびったりじゃないかと思えますね。ですからぜひこれを成功させていただきたいと。

それから友田家の国指定の重要文化財があるという。これを単に保存するだけでなく、どう活用するかという観点をお持ちになったのは、これは新機軸ですね。すごく大事なことだと思います。やっぱり活用して初めて、その持っている重要文化財の価値がですね、かえって生きるということで、今保存と活用というのを二つながら大事にしていこうという方向に変わっていますのでね。友田家も上手に建物を傷めないような形でそれを活用していくということ

が大事で。先程そこで音楽会ですか、きれいな明かりの中でですね、楽しいことが行われているってということが分かるような写真を見せていただきましたけれども、すごく大切ですね。

ですから、外から見て森町の持っている可能性に気づいていただいたことがうれしいし、里山っていうキーコンセプトを出しておられるのがいいと思いますし。そして森町というのは小京都と言われるようにですね、京都は俗化してますけれども、私自身は別に京都の悪口言うわけではありませんが、京都出身なので、そのとおりのことなんですよ。こちらの小京都は、太田川それから三方山に囲まれている。そしてもう豊かなこの農林水産物があると。で今は新東名ができて交通の便も良くなったということがあって、森町が今大きく本当のこの日本のいい所を見せる場所に変わりつつあるんじゃないかと。京都ってというのはある意味で東洋とか中国の模倣なんですね。森町は御案内のとおり、遠州一宮の小国神社があって、大洞院という素晴らしい名刹もあって、そして古いものが残っております。ですから古き良きものの生きた博物館なんですね。そこで人々が生活しているので。しかも文明の利器もあってですね、割と簡単に来られるようになってきているということで。そして森の恵み、里の恵み、水の恵みですね、これが豊かなので、ですから食べるのに困らないということがありますね。

そして人々のレベルが高いということがあります。いろいろと学者が出てますよ。最近亡くなられた惑星物理学の松井孝典先生も森町御出身ですし、台湾の砂糖をなにかしたのも森町の方ですね。首相補佐官を務めたふく何とかって人もいらっしゃるしですね。立派な人がたくさん出るんですよ。ですから開かれた所ですね。外国の方を、20 数カ国2年間で回られたというのは、一生の財産ですね。これが2年間のイベントで終わらないで、これがずっと縁(えにし)としてずっとお友達がまたお友達を連れてくるような、そういう人、国際的なね、京都ってというのは都ですから、都ってというのは人が引き付けられる所です。そういう新しい、都になるような所にしてくださるように、強く期待したいと思うところであります。ぜひ定住していただいて。みんな助けると思いますので。御家族でそうお決めいただければと思います。

それから発言者4さんは、マウンテンバイク、良い所を見つけましたね。山持ちだということでおめでとうございます。なにしろ岩手県、四国と同じ大きさの岩手県から来られたってことで、御歓迎申し上げます。宮沢賢治がいる所で御歓迎を申し上げます。それでですね、マウンテンバイクが素晴らしい。というのは、うちは御案内のとおり、マウンテンバイクとロードレースとそれからトラックレースでオリンピックのホスト県になった訳ですね。それでマウンテンバイクとトラックレースは伊豆のペロドロームで行われまして、従って国際的に注目されたんですよ。そうするとですね、伊豆ってというのは駿河湾側はですね、リアス式みたいになってる訳ですね。非常にあの絶壁的なところが多い訳です。そこに136号線がへばりついてる訳です。もう一方相模湾は東京側は135号線。これも海岸通りなんですよ。海岸にへばりついた国道なんですね。そしてそれまでは津々浦々で、津ってというのは港で、浦は海ですから、津と津を海で繋げると。これが伊豆における人々の生活の仕方だった訳です。だから山の中は放ったらかされてた訳ですね。

ところが今モータリゼーションになりまして、伊豆縦貫自動車道が今できつつあります。こ

れはもう不可欠ですからやりますけれども。バイクの人たちが、サイクリングの人が来てですね、マウンテンバイクの聖地になっちゃったんですよ。おっしゃるように雪降らないでしょ。富士山が見えるでしょ。ちょっと降りていけばすぐ温泉があったり、あるいは食べ物があって、海の物も山の物もおいしいと。昔からいろんな人が湯治に来られてるから、そういう人を応接するのに慣れてるからですね、あそこはマウンテンバイクリストの聖地になってるんですよ。驚きました。そしてその伊豆半島をぐるっと一周しながら太平洋側をずっとですね、袋井からずっと、愛知県さらに和歌山までですね、これは太平洋自転車道路になってるんですが、これは国のナショナルロードです。伊豆半島をぐるっと回っていくんですよ。ですからこれはロードレースではないですけども。長い距離を走るという。うちはそのナショナルロードコースになっております。

さてマウンテンバイクで、なるほどこっちは雪降らないと。そして森はたくさんあると。森は放ったらかされる面がちょっと強いので、どう活用するかということで、我々は県産材を使おうってことで一生懸命やってるわけですけども。なるほどマウンテンバイクという形で、森林中を、日本の森林中を経巡れば、人の手が入ると。森が言ってみればガーデンになる訳ですね、フォレストガーデンになる訳。人の手が入った森は野生じゃありませんから、言ってみればガーデンになる訳ですね。それを自転車で経巡るといことなのでですね。マウンテンバイクリストにとって伊豆半島と森のこのミリオンペタル、100万ですよ。最低50万人来てもらいたいということで。いやペタルは2つありますからね。ともかく日本は10万人とおっしゃったので、だからそれを増やしていく可能性は非常に高いでしょ。そしてヤマハさんほか、二輪を、マウンテンバイクだけじゃなくてe-BIKEほか、様々な自転車の活用方法のイノベーションが行われている、最も多いのは静岡県なんですよ。だからマウンテンバイクもさらにまだ改良されていくと思いますけれども。道を整備せんといかんといことと、今最後におっしゃった、携帯電話が通じない所がありますね。超高速のブロードバンドはですね、光ファイバーはもう99パーセント近く行ってるんですけども、まだ拠点と言いますか、中継地点がないために携帯がつながらないところがあります。これは総務省の方もお気づきで、協議会を設けておりますので、日本中いくつもそういう所がありますから。ですから安全のためにも、携帯電話が通じるようにしなくちゃいけないという、そんな問題意識を、あるいは問題提起をさせていただいたことはありがたく、私どもはそれを受けまして、そこにマウンテンバイクの1つの新しい聖地ができつつあると。こうした所で人々が困らないように、携帯電話で連絡できるようにしたいという大義名分と言いますか、根拠にもなるので。だから道につきましては、県道は一応あれは袋井からずっと春野に出る道とですね、それから藤枝から天竜に出る道ほかありますが、ひょっとしたら町営の道が狭いかもしれませんね。いずれにしても、マウンテンバイクリストにとって、アクセスするのに行く道も大切でありますから、この点は、今日は森町長さんも来てらっしゃるし、また県の関係者も問題意識持ってるに違いありませんので、そこがぐるっと経巡れるのに、どういうアクセスの問題点があるのかというのは、ちょっとチェックさせていただいて、また御報告したいというふうに思う次第でございます。

それから最後やっぱりね、イチゴだけでなく、ふるさと納税の返礼品に使えますよという。町長さん、そういうことでございますので、よろしく御検討いただければ。袋井と森さん両方にですね、平等にふるさと納税の品が出ましたので、ちょっと私の方もしっかり頭の中に入れて、それがふるさと納税に使われたと新聞に載ったりするのを待ちたいと思う次第です。ありがとうございました。

【発言者1-1】私もイチゴですね、もう栽培も10年経ちますので、イチゴだけって訳にもいかずに、やっぱりここにこれから土着していこうと思ってますので、ちょうど去年ですかね、厄年って言われた時に、農協の職員さんから厄年の時はいろんな役をやった方がいいよって言われまして。今になって考えれば本当かなと思うんですけど、それを機に去年から学校のPTAの方とか、地域の振興会の方とか、いろいろイチゴだけでなくそういった役もこれからこなしていきたいなと思ってます。

【発言者2-1】まず、本日御来場してくださり、私たちのプロジェクトを聞いてくださりありがとうございます。本当にこのプロジェクトを進めていくうえで、地域の方々の協力なしには本当にできなかったなと改めて思います。本当にこのプロジェクトをまず初めにやっていく上で、まずNPO法人のふらっとという所に行って、それで地域の方に仲介していただきました。特に今回のイベントを主催して下さった一般社団法人Pay Forward Shizuokaの理事長さんが、その方が本当に私たちの思いを聞いてくださって、やってくださいました。

やっぱり今まで学校外に出て活動するってことを私たち自身やってこなかったもので、本当に地域、袋井市ひとつとっても、すごいいい経験をできたなと実感しています。ありがとうございました。

【発言者2-2】本日はこういう会を開いていただき、ありがとうございました。

発言者2-1くんからこのプロジェクトをやろうって言われたんですけど、本当に初めはできるか不安で、いろいろな課題に当たったんですが、その時に地域の方々の支援だったり、地域のクリエイターから技術的な支援を受けて、今ここまで来れたと思っています。本当にありがとうございました。

【発言者2-3】今回はこのような会を開いていただきありがとうございます。

私も発起人の発言者2-1から話を聞いた時は、まずプロジェクションマッピングをやりたいというのを聞いたんですけど、その時に自分は、そのくらいできるだろうというなめた気持ちだったんですけど、実際やってみると、やっぱり東京駅とかでもプロジェクションマッピングなどは開かれていると思うんですが、本当に様々な技術とかお金もかかりますし、そのような大人はすごいなというのを改めて感じました。

制作は、開催したのが4月で、前年度の7月から行って、仮作品を作りながら、4月に完成

したということで、本当にいいこの青春の時に、いいものを作って、いいことを知れたなと思います。本当にありがとうございました。

【発言者3】今日はお話を聞いていただきありがとうございました。

里山に住んでみて思うんですけれども、今、前の100年の人たちが次のバトン、前の100年の人たちからバトンを渡されているような気がしていて、今この里山に住んでいる方たちがいなかったら、1人でも欠けてたら、今ここに集落はないんだなって思うと、すごくなんか自分の中ですごい気負いが、気負ってしまっているんですけれども、何が財産かって考えた時に、やっぱり自然だったり、そこに残っている歴史や文化なんじゃないかなっていうふうに思っていて。でもだんだん山間地に人が少なくなってきていて、もう可愛い、今たくさん可愛いおじいちゃんとかおばあちゃんが、つい先日もちょっと近い方が亡くなったんですけれども、もうすぐ、どんどん先細りになっていくんだなっていうふうにちょっと不安を感じていて。でも人が少なくなってくるとやっぱり、行政的にはお金がなかなか山間部には、ただメンテナンスにすごくお金もかかるし、目が行かなくなってきているんですけど、先程の平太さんがおっしゃったみたいに、奥ってというのはすごく大事な場所って意味なので、この奥を大事にさせていただけるような、これから行政との連携が欠かせられないのかなというふうに考えています。どうぞこれからもよろしくお願いします。

【発言者4】はい。そうですね、先程知事の方からありがたいお言葉いただきまして、いろいろと何かしらのアクションを起こしていただけるってところで、ありがとうございました。今日ですね、ここに御列席されてる方々も、私たちの活動と一緒に何かできたりするんじゃないかなとか、いろいろ思ったりもしたので、今後ですね、なんかちょっといろいろと一緒にできるようなことをできればなと思ったりしました。そんな感じでございます。

【傍聴者1】袋井市の傍聴者1と言います。袋井高校さんに質問で、プロジェクションマッピングやられたじゃないですか。あれは見て感動したんですけど、次はどこでプロジェクションマッピングするのかなど。個人的にはちょっと面白いし、気になって。どこでやるのかなど思っています。やる予定あるんですか。

【発言者2-1】御質問ありがとうございます。そうですね、私たち今高校3年生で、部活動も6月の文化祭をもって引退しました。今2年生と新しく入った1年生で30人程で活動しています。今のところはプロジェクションマッピングをやっていくとかっていう計画はないんですけど、一応今2年生は2年生で、地域のために活動等しています。

また地域の方だったりとかが協力して、また何か1つプロジェクトをやるとなった時には、私たちも学校を中心にしてサポート等をしていきたいと考えています。

【傍聴者 2】袋井市神長から参りました、傍聴者2と申します。よろしくお願ひいたします。

今日3組の方が、いろんな地域から袋井市・森町に移住して来られたっていうことを今日初めて知って本当にびっくりしたんですけども。この袋井市でもそういうことあればいいなと思ってたら、本当にあるっていうので、本当に今日のお話感動して聞かせていただきました。

私はお昼のNHKの番組で「いいいじゅー!!」っていうのが、番組すごく面白くていつも拝見してるんですけども、そこに皆様、NHKに取材してもらって、出られたらいいなと思うんですね。そしたら日本中世界中にアピールできるので。そのふるさと納税とか、世界に売り出していくとかね、そういうことも広がっていくんじゃないかと思うので、ぜひ出演してください。NHK「いいいじゅー!!」っていう番組です。とてもいい番組なんでぴったりだなと思いましたので。とても期待しております。ありがとうございました。

【傍聴者 3】袋井市浅羽から参りました、新規就農いたしまして、私も10年になります。傍聴者3と申します。よろしくお願ひいたします。

今日はとてもいいお話を聞かせていただきました。急ぎよ、この会に参加させてもらうように昨日電話でお願いをしました。

私たちは「袋井農業女子」という形で発言者1-2さんと一緒にやっております。それで新規就農していろいろな悩みもございます。でも今日このように皆様のお話を聞かせてもらいまして、農業を通して、やはり農地を大事にして、作物を大事にして、里山を大事にして、森町とともに袋井市も、今後未来につないでいくことが大事なんだなということを改めて気付かせていただきました。なのでまたこれから、プロジェクションマッピングのように、私もトウモロコシをやっておりますので、何かそういった形で大きな迷路を作れたらなということで、いつか御相談に伺いたいなと思っております。

今日は本当に貴重なお話をありがとうございました。

【川勝知事】今、袋井の傍聴者3さんがまとめてくださりまして、誠にありがとうございました。良いまとめだったというふうに思います。

発言者1-1さん、ぜひいろんな役を。はい、それが厄よけになると。字が違いますけれども。

それからですね、実は、私80回以上やってるんですけども、おそらくこの袋井高校の17歳が一番若かったんじゃないかと、今までで。一番しっかりしているかなというふうにも思いました。今日、彼らは遠慮して言いませんでしたけども、実は確か理工科大学の国際学会で発表してるんですね。英語ですか？英語でやったそうですよ。いかに優れてるかっていうことですね。理工科大学もいいですね。

実は今私、気が付いたんですけども、静岡産業大学の学長先生がですね、来ていらしたと。こういう良い青年がいるってことを、やっぱりあなた方が出るから彼、来たんじゃないかと思えますよ。

そういうこともありまして、非常にレベルの高い参加者の方たちがいらっしゃるということも分かりました。

皆様方、暑さをいとっていただきまして、熱中症にならないようにして、この夏乗り切ってください。

今日は非常に充実した時間を過ごすことができたことを大変喜んでおります。袋井の皆様方、森町の皆様方、重ねて厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。